

阿賀野川

aganogawa E-toko dayori

えとこだより



ここにあるすべてを、
かけがえのない「宝もん」へ。

まとり ほうらい そんちゆうだいばんにの
「馬取集落にある寶來寺の伝統行事・村中大般若」(場所:阿賀町豊実丁) 撮影:山口冬人氏(公益社団法人日本写真家協会会員)

もくじ

- 特集1 阿賀野川エコミュージアムを目指す流域再生フォーラム(第12回)開催のお知らせ — 2
- 特集2 阿賀流域再発見・連続ツアー講座2023 — 4
- 清らかな水を守り活かす、阿賀野川上流域の持続可能な豊かさとは? 開催レポート
- 特集3 令和5年度パネル巡回展 — 6
- 阿賀野川流域地域 水と大地のSDGsをさぐる【大河編】
- インフォメーション — 8

阿賀野川流域のSDGs^(※1)を具体化していくために

大河・公害・大地という切り口から、流域の「環境」「人権」「地域」を探る

F M事業^(※2)では今年度から、「阿賀野川流域の歴史や文化が織りなす光と影」への理解を深めた上で、「流域での現在の暮らしや地域の未来」を模索していきたいと考えています。しかし、こうした「持続可能な地域の今後」について、具体的に何をどのように探れば良いかはあまり判断していません。

現在、国や社会が持続可能に発展していく目標として、世界中で「SDGs」が推進されています。「SDGs」は17の目標から構成されますが、これらを整理すると「環境」「人権」「地域」に大別されます。F M事業では、この3つの視点^(※3)を掘り所を探ろうと考えています。

今号でも紹介していますが、毎年開催されるパネル巡回展について、今年度から「流域のSDGsを探る」という共通テーマのもと、3年かけて【大河編】(1年目)、「公害編」(2年目)、「大地編」(3年目)を展開します。F M事業では今後、阿賀野川流域を特徴づける大河・公害・大地という切り口から、流域を持続可能にする3つの視点「環境」「人権」「地域」について考えを深めていきます。

※1「Sustainable Development Goals」(= 持続可能な開発目標)の略称。詳細は P.2 参照。 ※2「阿賀野川えとこだプロジェクト」のこと。詳細は P. 8 参照。 ※3 詳細は P. 7 参照。